

平成26年度、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会 小中学生作文展

小学生の部 講評:屋久島森林生態系保全センター 所長 前田三文さんより

賞	名前	講評
最優秀賞	永田小学校5年 藤條 玉葉さん	「百年先の未来まで」 屋久島の観光のあり方と自然保護は大人達にとっても難しい課題であり、これからの屋久島を考える上でも議論の積み重ねが必要です。この難しい課題に百年先までも屋久島の素晴らしい自然を残すためには「足るを知る」ことが必要ではないかと訴えます。屋久島の自然や人々の暮らし、観光と自然保護の共存についてこれからも考えて行って欲しいと思います。
優秀賞	神山小学校4年 赤司 弦貴さん	「赤司家とシカとサル不思議な登山」 白谷雲水峡から太鼓岩に登る途中、シカやサルがまるで自分達に連れ添うように歩いていた不思議や、太鼓岩の頂上で太鼓岩の奥が空っぽだからポンポンと音がするんだという自分の説明に、弦貴のお腹も空っぽだからポンポンと音がするんだらうとおじいちゃんから言われ大笑いになったことなど、楽しかった登山の様子がよく分かるユーモアあふれる作文です。
優秀賞	永田小学校6年 徳永 よしみさん	「人生に一回は行ったほうがいい所」 宿泊学習で雨の日のヤクスギランド散策となり、最初は「晴れやかな気持ち」になれなかったものの、雨水にキラキラと光るコケをルーペで観察したり、迫力あるヤクスギに出会ったことでヤクスギランドの魅力を改めて知り、屋久島の自然はだれにでも自慢できる素晴らしい自然で大切に未来に残していきたいと綴られています。
奨励賞	永田小学校3年 小倉 昴さん	「きびしかったじょう文杉と山」 最初は「がんばって登るぞ」と元気いっぱい縄文杉登山を始めたものの、トロッコ道の終点から厳しい登りが始まり、ウィルソン株ではもう歩けないと思いつつも最後の力を振り絞って縄文杉へたどり着いたことや、帰り道、眠気と足のいたみで少しばかりお父さんにおぶってもらったことなど、厳しかった登山の様子を正直に描き、次はお父さんみたいに体力をつけてまた挑戦するぞと誓います。
奨励賞	安房小学校3年 ます田 かおるさん	「大川のたき」 大川の滝を初めて訪れ、「花火の二倍くらい」の音の大きさに驚き、プールの長さの2倍くらいの高さから流れ落ちる滝に圧倒されます。大量の水が滝となって流れ落ちるのに滝壺の水が増えないことを不思議がり、滝の上がどのようにになっているのか興味を持ちます。大川の滝の「パワー」に感動したことが伝わります。
奨励賞	永田小学校4年 田中 美空さん	「初めての太鼓岩」 以前、大雨で行けなかった太鼓岩に今度は遠足で挑戦。大きな岩や石でできた階段を息を切らしながら登り、苔むした岩の上を流れる溪流や道に落ちているドングリ、人が手を上げているようにみえる白い枯木など、白谷雲水峡の珍しい風景が描かれ、初めて登った太鼓岩からの風景を一生忘れないと感動した気持ちが伝わります。
奨励賞	安房小学校4年 泊 朝希さん	「自分の目で見ると」 鹿児島から来たお姉ちゃんの友達と白谷雲水峡に遊びに行き、大きなヤクスギやみずみずしいコケに包まれた苔むす森で、お姉ちゃんの友達に「屋久島ってすごい」と言われ自分もうれしくなります。屋久島の素晴らしい自然を残すにはどうしたら良いのかとお父さんに聞くと「今は屋久島を自分の目で見ることが大切だよ」と言われ、できるだけ屋久島の自然を体験しようと心に決めます。
奨励賞	安房小学校4年 和田 萌々香さん	「また登山したいな」 親戚と太鼓岩まで登山し、苔むす森で太陽に光るコケを見たおばさんから「きれいだね、屋久島に来て良かったよ」と言われたり、ヤクシカをしきりに写真に撮るおじさんやおばさん、登山に疲れながらも太鼓岩からの風景に満足する皆の顔を見てうれしくなります。頂上へたどり着いた満足感にまた登山をしようという気持ちにかき立てられます。
奨励賞	神山小学校5年 黒川 陽菜乃さん	「屋久島の森の山の奥」 ヤクスギランドの木々の間からもれる光や川のせせらぎ、小鳥の鳴き声、苔の感触、空気の臭いを「ああ、気持ちよい」と素直に感じ、もっと奥に行けば神秘的な風景が待っているのではないかと想像をかき立てます。屋久島の森の奥、誰も知らない未知の世界を訪ねたいという気持ちが伝わります。

奨励賞	永田小学校5年 七里 太音さん	「この経けんを来年に」 白谷雲水峡から太鼓岩までの急な山道を遠足で登ることになり、「なんで太鼓岩なんだろう」と急な山道を見てやる気をなくします。登るにつれだんだんと息が切れ苦しくなります。休憩を挟みようやく太鼓岩にたどり着くと、吹き渡る風が心地よく、そこからの絶景に感動します。この達成感を味合うために苦しい思いをして登ってきたことに気づき、再チャレンジすることを誓います。
奨励賞	宮浦小学校5年生 若本 流音さん	「それぞれ違う滝」 千尋の滝と大川の滝はその風景と水のつや感が違う。千尋の滝は神様がもうそこにいるような景色でピカピカの水、大川の滝は神様が降りてきそうな景色でサラサラの水。そこまで滝に関心をもつ自分が不思議ではないが、滝の音を聞くと幸せな気持ちになり、滝の美しい景色と水のつや感をこれからも守り続けたいと心に誓います。

平成26年度、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会 小中学生作文展

中学生の部 講評:屋久島森林生態系保全センター 所長 前田三文さんより

賞	名前	講評
最優秀賞	中央中学校1年 荒木 仁さん	<p>「屋久島の滝」</p> <p>大川の滝、千尋の滝、トローキの滝にはそれぞれ魅力があり楽しみ方がある。滝には人間ばかりでなく動物も引き寄せられる。その魅力は屋久島の自然そのものが生み出しているのかも知れない。</p> <p>この屋久島の自然を大切に残し、いつまでも世界自然遺産の島であってほしいと願います。</p>
優秀賞	中央中学校1年 藤村 嵐土さん	<p>「大川の滝」</p> <p>大川の滝の滝壺にはボウズハセやヨシノボリが生息し、カワガラスやキセキレイ、カワセミなどの水辺の野鳥が飛び交う。まだ見たことはないが、午後3時頃になると滝に虹がかかることもある。</p> <p>大川の滝の魅力が綴られ、屋久島の山で育まれたおいしい水と美しい自然の中で生活できることを「とても平和だ」と感じます。</p> <p>こんな自然を未来の人に見せられるよう守っていきたいと思うと同時に、世界自然遺産の屋久島に生まれて良かったという気持ちが伝わります。</p>
奨励賞	中央中学校1年 荒木 賢登さん	<p>「大川の滝」</p> <p>大川の滝に多くの観光客が訪れるのを見て、屋久島のどこがいいのか「ずーっと」考えていたが、都会の友達から屋久島のきれいな川や自然を「うらやましい」と言われ、改めて屋久島の世界自然遺産としての価値を調べ始めます。</p> <p>世界自然遺産に登録されるためには厳しい条件を満たさなければならず、そのために屋久島の人達は何をしてきたのか、分からないことも多いが、屋久島の自然は守るべきものとして「管理」されてきたことが評価されたのかもしれないと思い始め、改めて大川の滝で自然のすごさを体感します。</p>